



さいかい

2026.2

Vol.119

Winter

Contents

- 第32回長崎県作業療法学会紹介
- 特別企画アンケート結果報告
- 達人Tell me
- 第4回職場紹介 ～島原保養院～
- 認定作業療法士の紹介
- 臨床実習指導者講習会
- 作品紹介
- 新生涯学修制度
- メンタルヘルスの保ち方
- 県土会のSNS紹介

第32回 長崎県作業療法学会



「わたし」と「あなた」のストーリー
～作業療法がわたしに出会いをもたらした～

2026年2月28日（土）～3月1日（日）

会場 長崎大学 医歯薬学総合教育研究棟

学会長 岩阪 真大（医療法人昌生会 出口病院）

主催 一般社団法人 長崎県作業療法士会



長崎を牽引してきた講師陣

特別講演

「作業療法における学術活動の未来構想」

講師：東登志夫 先生 所属：長崎大学医学部保健学科

シンポジウム

「わたしの歩み・キャリアストーリー

～20代、30代、40代の経験が今につながる～」

講師：淡野義長 先生 所属：長崎医療技術専門学校

琴岡日砂代 先生 所属：長崎県立こども医療福祉センター

本村幸永 先生 所属：長崎県精神医療センター

長崎に縁のある講師

教育講演

「作業療法士のキャリア形成を支える
生涯学修制度
～私のヒストリーから得た学び～」

講師：丹羽敦 先生

所属 福岡国際医療福祉大学 医療学部
作業療法学科

スケジュール



2.28 (土)

第1会場

第2会場

- 9:00-9:30
受付
 - 9:30-9:40
開会式
 - 9:40-10:20
学会長基調講演
 - 10:30-12:00
教育講演
東登志夫先生
 - 12:00-12:50
昼食
 - 12:50-13:45
一般演題I
 - 13:55-15:00
一般演題III
 - 15:20-17:10
特別企画
- 12:50-13:45
一般演題II
 - 13:55-15:00
一般演題IV

3.1 (日)

第1会場

第2会場

- 9:00-9:30
受付
 - 9:30-11:00
教育講演
丹羽敦先生
 - 11:10-12:40
シンポジウム
淡野義長先生
琴岡日砂代先生
本村幸永先生
 - 13:00-13:20
閉会式・優秀演題表彰
- 9:30-10:25
一般演題V
 - 10:35-11:40
一般演題VI
 - 11:50-12:45
一般演題VII

※詳細な情報は、下記のURLの『日程表・プログラム』、『学会誌』をご確認ください。
↳【URL】 <http://www.nagasaki-ot.com/otgakkai/gakkai-program/>

特別企画アンケートの
結果を元に話し合います！



レセプション

会場：長崎アザレア

長崎県長崎市平野町4-16 (ホテルセントポール長崎内)

日時：2026年2月28日 18:30~20:30 (18:00開場)

お問い合わせ

担当：桑原太志 (上戸町病院)

E-mail：210shi2104@gmail.com

※レセプションの詳細な情報はこちら

↳【URL】 <http://www.nagasaki-ot.com/otgakkai/gakkai-sankasha/>



「これからの長崎県作業療法士会について」

会員・非会員を問わず、アンケートへのご協力ありがとうございました！

学会当日はアンケート結果を元に参加者全員で一つのテーマについて話し合いたいと考えています。



今回は皆様に回答いただいた貴重なご意見を長崎大学の先生方のご協力のもと統計処理を行いました。

回答いただいた総数293名のアンケート結果を設問Q10あなたはこれまでに県士会主催の活動に参加したことがありますか？で「参加している」と回答した群を【参加群N=117】、「あまり参加していない」「一度も参加したことがない」と回答した群を【未・低参加群N=169】と分類し、2群間で各項目の分布が異なるかを検討しました。

※参加群と未・低参加群の間で各項目の分布が異なるかを検討したものであり、P値は群間比較（参加状況・各特性）の結果を示している。

1 Q1 あなたの性別をお答え下さい。(p < 0.001)

参加群では男性の割合が高い(61%)
未・低参加群では女性の割合が高い(63%)
参加状況と性別の分布には有意な関連が認められた。

2 Q2 あなたの年齢をお答え下さい。(p < 0.001)

参加群では40歳代(44%)が最も多く、次いで30歳代。未・低参加群では20~30歳代の割合が高い(20代32%、30代38%)。
参加群は中堅~ベテラン層、未・低参加群は若年層中心という分布差が示された。

3 Q3 作業療法士の資格取得年数をお答えください。

※p値は示されていないが、分布差は明瞭

参加群では10年以上の経験者が多数(特に10~20年、20~30年)。未・低参加群では10年未満の割合が相対的に高い。

参加群は経験年数が高い層に偏っている傾向がある。

4 Q6 現在あなたが勤務されている職場での役職をお答えください。(p < 0.001)

参加群では主任職・管理職(室科長以上)の割合が高い
未・低参加群では一般職が大多数(85%)
参加群は職位が高い層が多いことが示された。

5 Q7 現在、あなたは日本作業療法協会に入会していますか？(p = 0.002)

参加群：95%が入会中。
未・低参加群：入会率が低く、退会経験者も多い
参加群は職能団体への所属意識が高い。

11 Q21 もし、県士会自体がなくなったら、あなたにとって困ることがあると思いますか？(p < 0.001)

参加群：「困ると思う/とても思う」が多数。未・低参加群：「あまり思わない」が多い。

県士会の存在価値の認識に違いがあることが示唆される。

6 Q8 現在、あなたは長崎県作業療法士会(以下、県士会)に入会していますか？(p < 0.001)

両群とも入会率が高いが、未・低参加群では退会経験者が多い。入会継続と参加状況に関連が示唆される。

7 Q9 県士会に入ったきっかけは何ですか？もっともあてはまるものを1つお選びください。

参加群：「上司・同僚の勧め」が最多。(p = 0.020)
未・低参加群：「職場の業務命令」の割合が高い。
参加群は自発性・周囲の影響、未・低参加群は受動的要因が強い傾向を認めた。

8 Q18 あなたは県士会がどのような活動を行っているか知っていますか？(p < 0.001)

参加群：「知っている/よく知っている」が多数。
未・低参加群：「あまり知らない/まったく知らない」が多数。活動認知度と参加状況に強い関連が認められた。

9 Q19 あなたの職場は県士会主催の活動への参加に協力的ですか？(p < 0.001)

参加群：「協力的/とても協力的」が多い。
未・低参加群：「わからない/あまり協力的でない」が多い。職場環境が参加に影響している可能性あり。

10 Q20 県士会主催の活動はあなたの職場で評価の対象となりますか？(p < 0.001)

参加群：「評価対象となる/条件付きで対象」が比較的多い。未・低参加群：「わからない」「対象とならない」が多い。
参加のインセンティブ構造の違いが示唆される。

上記を含めたアンケート全体の結果から、特別企画で話し合うテーマが決定しました！

【グループワークテーマ】

県士会主催の活動に「あまり参加したことがない」や「一度も参加したことがない」士会員が、「参加している」士会員となるためにはどのような方法があるか？

行政OTの魅力について

長崎こども・女性・障害者支援センター 矢野 亮一先生



今回の達人！

》》はじめに

「達人」と名の付くコーナーに寄稿を依頼されましたが、私は「道を究めた」職人的なOTではありません。専ら、OTの専門性を長崎県の保健福祉行政にどう生かせば、県民生活や社会をより良くできるかを考え、努めてきました。そんな私の試行錯誤してきたことを県士会のみなさんにお話しすることが、行政OTの魅力伝えることになれば、長崎県の県庁や保健所、精神保健福祉センターで働くOTに関心をもっていただけるのではないかと願っています。

》》「医療機関OT」から「行政OT」に

私は、昭和の終わり頃にOTになり、長崎県職員として当時県立だった県精神医療センターに入庁しました。まだ、病院にOTがいるだけでも珍しい時代でした。私自身、ずっと病院臨床を続けていくつもりで、恩師の平尾一幸先生や仲間と、発足したばかりの勉強会「ちゃんぽん」をとおして自己研鑽を積んでいました。

ところが、地域保健法施行後の平成9年度より各県立保健所に新たにOTを1名ずつ配置することとなり、その流れで私も15年度に保健所へ配属となりました。その当時は、「保健所って何をするとところ？」くらいの知識しかなく、その後の実践では「地域保健活動にOTの専門性をどう生かせるか」と自問自答しながら、保健所のOT仲間と共に悩む日々でした。

転機となったのは、保健所で事務職が担当していた地域リハビリテーション支援体制整備事業を専門職であるOTが担当したことでした。慣れない事務作業に各保健所のOT一人一人が対応しながら、松坂誠應先生ご指導のもと地域リハの実現に向け、各保健所圏域単位で関係者会議の開催や意見調整、また人材育成などを進めてきました。そして、地域リハの理念のもと医療・介護・福祉の専門職や高齢者など様々な立場の方達に、介護予防の重要性の理解促進や障害者のより良い地域生活実現のための支援体制整備などに取り組み、保健所OTとしての専門性を追求めていきました。

》》地域包括ケアシステム構築の実現に向けて行政OTが活躍

その後、国から地域包括ケアシステムの考えが示され、市町村を単位とした地域包括ケアシステムの構築が求められることになりました。システムの実現は、施設の増設、サービスや制度の充実を図る共助・公助だけでは達成できません。「障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべて」を指す、地域リハの実践をとおして果たされる自助・互助があってこそ、達成できていくものなのです。しかし、地域リハの推進を図るリハ職自体が、県内市町にはあまりいませんでした。そこで、保健所OTが活躍する機会を得ることとなりました。

市町においては、どこから取り組めばよいか悩ましい地域包括ケアシステム構築を戦略的に進めたいところですが、戦略を練るには課題の整理と分析が必要です。そこで、保健所OTが市町の相談相手となり、市町担当者と共に悩みながらシステム構築のための課題整理を始めました。その作業過程では、OTが得意とする“対象者のからだやこころの状態を評価しながら生活行為を「診る」ことができる力”を生かし、先行する市町村の情報提供も行いながら、住民が自律した生活を送るには何が課題なのかを市町担当者と抽出・整理し、さらに課題を改善するにはこの地域で何が必要なのかの協議を繰り返しました。それによって、保健所OTが「市町の役に立つ」ことにつながり市町にとってシステム構築の推進には保健所OTが必要な存在となっていきました。

》》行政OTの魅力とは

私の場合、県庁長寿社会課で4年間勤務したことも貴重な経験となりました。これまでの保健所での経験値だけでは太刀打ちできない膨大な事務量、難解な行政用語と高度な事務手続きに翻弄されていました。当時の私は主に認知症施策を担当していましたが、業務をとおして議会对応のための答弁書作成における文章力、議員や上司に理解を促すための説明力、事業を展開するために財政課を納得させ予算取りができる戦略的思考力などが鍛えられました。（私自身、いずれの「力」もあまり育ちませんでした…。）

最後にまとめますと、行政OTの魅力とは、①(県の)政策実現に向けた施策の実施に関わることができる、②地域包括ケアシステム構築をとおして地域の高齢者・障害者を支える仕組みづくりに携われる、③業務をとおして人と人とのネットワークが広がる喜びを得られる、ことかと思えます。

行政OTとして地域でどう展開するかは、教科書には具体的に書かれていません。その方法は、自分自身が様々な職種や立場の方達と協力しながら、創り出していくものです。この魅力を味わいたい方は、ぜひ行政OTの世界においでください。

病院紹介 VOL.4

済家会 島原保養院



島原保養院は長崎県島原市南下川尻町にあります精神科病院です。1997年に精神科リハビリテーション課が開設、2007年より精神科通所デイ・ケアを開設しております。2025年現在、当院のある島原市の高齢化率は37.1%を上回り、超高齢化社会の渦中にあります。その中で、高齢者医療・認知症医療に特に力を入れ、認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム（2021年10月～）を設置し、多職種間で連携を取りながら住み慣れた場所で長く過ごすことができるよう職員全員で支援を行っています。

OTが関わっている部門

- ・精神科病棟（精神科作業療法）
- ・認知症治療病棟（生活機能回復訓練）
- ・精神科デイ・ケア（小規模なもの）
- ・認知症初期集中支援チーム

院外での活動

- ・認知症サポーターとして小中学生、一般への講義
- ・介護予防事業等へ講師として参加
- ・県土会活動（地域まつり等）への参加など



スタッフ紹介



原田 航輔

- 経験年数
10年目
- 出身校
長崎リハビリテーション
学院



上村 香奈恵

- 経験年数
19年目
- 出身校
熊本総合医療
リハビリテーション学院
(旧：熊本リハビリテーション
学院)



このページは、日本作業療法士会の認定資格を持っている方々を紹介する企画です。今回、認定作業療法士、運転と地域移動支援実践者を取得された県士会員にインタビューしてみました！！

認定作業療法士とは 作業療法の臨床実践、教育、研究及び、管理運営に関する一定水準以上の能力を有する優れた作業療法士のこと。

取得しようとした経緯 単純に知識や技術を向上させたいという思いがあったからです。加えて、当時の自分は現状に満足できず、さらに先輩からの勧めもあり、挑戦を決意しました。

取得で大変だったこと 新規取得するためには、さまざまな要件を満たす必要がありました。特に臨床能力実績3例の提出については、学会発表に加えて事例登録制度への登録が求められ査読を経て可否が通知されるため、その結果を受け取るまでには時間を要しました。さらに、妊娠や出産といったライフイベントと重なり、育児をしながら登録作業を進めなければならず、大きな負担となりました。しかし、認定作業療法士を取得したからといって安心できるわけではなく、更新制度も存在します。そのため、取得後のアンケートでは、育児世代の女性作業療法士に配慮したカリキュラムや期限延長の必要性について協会に訴えました。今後も困難は続くと思いますが、楽しみながらパワフルママさんOTとして取り組んでいきたいと考えています。



長崎県精神医療センター
前田 美穂さん

取得してよかったこと 研修会で出会った全国の作業療法士に出会えたことと、常に現状に満足せず向上心を持ち続けられるようになったことです。全国で活躍されている作業療法士の先生方とお話すると、その実力に圧倒されることが多々あります。私自身もそのような先生方のようにになりたいという希望を抱き、コミュニティに所属することで自然と自己研鑽を重ね、自分らしい作業療法のスタイルを築いていきたいと考えています。



JCHO松浦中央病院
市丸 大輔さん

取得しようと思った経緯 きっかけは、元上司の森勝彦先生の教えからです。また作業療法の専門性を体系的に整理し、臨床判断の根拠を明確にしたいという思いから挑戦しました。

取得で大変だったこと 共通研修の倍率が高く、申し込み＝受講ではなかったため、何度も申し込み(年をまたいで)をして受講したことですかね... (笑)

取得してよかったこと 自らの臨床を振り返り、継続的に学び続ける姿勢が身に付いたことは、認定OT取得の成果であり、専門職としての成長を実感できるのではないかと思います。

運転と地域移動支援実践者とは 日本作業療法士協会独自の認定制度です。運転と地域移動支援実践者制度は、運転と地域移動を支援する作業療法士の質、水準の維持・向上及びその社会的地位の確立を図るため、一定の基準を設けて運転と地域移動を支援する作業療法士の養成・審査・認定を行い、もって国民の保健・医療・福祉に寄与することを目的としています。



JCHO諫早総合病院
下濱 太陽さん

取得しようとした経緯 私は前職の頃から自動車運転再開支援に携わってきました。7年前に地元へ戻った際、諫早では自動車運転再開支援の取り組みの整備が行われていない状況を知りました。特に地域によって利用できる移動手段の種類や便利さには大きな違いがあり地域格差が存在しています。過疎地では自動車運転ができなくなることで通院や買い物といった日常生活の維持が難しくなることが懸念されています。移動手段の確保は、生活を支えるうえで欠かせない重要なテーマだと考えました。そこでまずは自分の職場内から自動車運転再開支援を行う取り組みを始めました。そのような中で、日本作業療法士協会が「運転と地域移動支援実践者」という認定資格制度を創設しました。これまで自分が積み重ねてきた取り組みが専門職としての形として示せるのではないかと思います。取得を決意しました。

取得で大変だったこと 今回、運転と地域移動支援の研修も開始してすぐ受講しており、実践報告も学会発表で済ませていたため取得に関しては、スムーズに進めることが出来ました。日々の臨床のアウトプットと、研修での知識のアップデートを行うことで取得に繋がるため目指しやすい資格ではないかと思います。

取得してよかったこと 資格を得たことで、運転という作業に対しての考え方・理解がより深まり、自信をもって地域の方々に向き合えるようになったと感じています。今後も県央地区を中心に、県全体として高齢者の移動手段を支える取り組みがより広がるよう、知識のアップデートや評価支援の方法を学び続けながら、自動車運転に関する関係機関との連携を強化し、支援の質の向上に努めていきたいと思っています。

臨床実習指導者講習会

長崎リハビリテーション学院



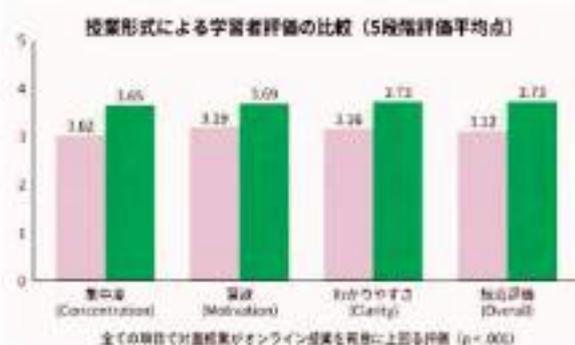
6年ぶりに臨床実習指導者講習会を対面で実施しました。今回40名の方が受講し、2日間しっかり学ぶことができました。対面であったため、グループディスカッションも活発に行うことができ、大変学びの多い時間になりました。また、対面研修であったため、参加者や当日スタッフとの交流関係も広がりました。改めて対面の良さを実感しました！

今回学んだ内容の中には、ハラスメントなど普段の業務でも活用できる内容もありました。学生指導のみではなく、後輩指導にもぜひ活用していただければと思います！



ここで豆知識

対面研修が持つ優位性について



オンライン授業と対面授業を比較して対面授業の方が特に『集中度』と『意欲』の項目で高い優位性を持つ事が報告されております。

オンライン授業と対面授業の比較から得られた課題とはー (望月, 2021)

※この報告はAIにより情報収集・画像作成を行っております。





精神科作業療法 作品紹介

(医) 耕雲会 日見中央病院 下田博之

彩り（作業療法）の時間に患者様が一つ一つ丁寧に制作された作品をご紹介します。彩りとは集団の中に身を置きながらも、患者様それぞれが主体的に作業を選択し、並行して取り組む場であることを意味しています。指先を使い、色合いを考えながら作り上げた力作ばかりです。



モザイクアート

花紙を指先で丸めて紙に貼り文字や絵などの壁面飾りを作っています。形も均一になるよう調整しながら下絵を参考にボンドで貼り付けています。集中力や目と手の協調性などにアプローチしています！



エコクラフト作品

二つとも男性の患者様が制作されておりほかの患者様・スタッフからも人気を集めています。二重で制作されており通常のものよりも頑丈にできていますがその分、指先の力調整が難しいです。

編み物・巾着

「この色が好き」「この柄が可愛か」。たくさんの生地や毛糸の中から自分だけのお気に入りを選んで制作しています。マフラーは認知症の患者様が棒針を使用して作られています。編み目を間違わないように注意し、指先の感覚と手元が狂わないように姿勢を保持しながら操作します。巾着作りも同様に手芸としてはもちろん普段使いできるものを制作することで、患者様のQOL向上を目指した治療的活動の一環として行われています。



季節に応じた飾り付け

四季折々の風景や年中行事をテーマにみんなでアイデアを出し合いながら壁面飾りを制作しています。今回は、趣がある「紅葉と鹿」の貼り絵と、紙コップや毛糸を使った可愛らしい「クリスマス飾り」をご紹介します。季節を感じながら昔話に花を咲かせることで見当識への働きかけにもなり、心穏やかな療養生活を支える大切なアプローチとなっています。



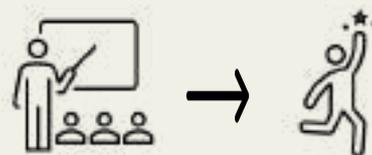
作業療法士の未来を拓く「新生涯学修制度」

— 自律した学びが、専門職の価値を高める —

教育局 中村和也（長崎記念病院）

日本作業療法士協会は、2019年度からの検討を経て、新たな教育の枠組みである「新生涯学修制度」をスタートさせました。OTの有資格者数が10万人を超える今、専門職としての質をいかに維持・向上させ、社会からの信頼を高めていくかは、私たち共通の重要な課題です。

本制度では、名称を従来の「生涯教育制度」から「生涯学修制度」へと改めました。これには、受動的に教育を受ける立場から、OT一人ひとりが主体的に学び続ける専門職へと進化していこうという強いメッセージが込められています。協会は、会員の自律的な研鑽を支援し続けることで、職能団体としての基盤をより確かなものにしていくことを目指しています。



受動的でなく主体的に
学び続ける専門職へ

制度の中核となるのが、新たに創設された「登録作業療法士制度」です。標準的な作業療法プロセスを自立して実践し、後輩や学生の指導を担える力を備えたOTに付与される資格であり、2030年までに3万人以上の登録を目標としております。OT全体の臨床力の底上げとともに、医療・介護・地域の現場における信頼の証となることが期待されています。

2025年度以降の新入会員は、5年間の体系的な研修を通じて登録作業療法士を目指します。前期2年間では、全70タイトルのeラーニングにより、最新の知識を効率的に学習し、前期・後期を通じて日々の実地経験を積み重ねます。また「臨床実習指導者講習会」や「MTDLP基礎研修」の修了を必須とし、指導力と作業療法士ならではの視点を養います。

登録作業療法士制度では、職場での実地経験を学修の中核に位置づけています。自己評価ツールや目標管理を活用し、上位者の支援を受けながら段階的に成長できる仕組みが整えられました。職場での確認が難しい場合にも、自施設外研鑽による代替措置が用意されており、学修機会の公平性が確保されています。

2024年度以前から生涯教育制度に取り組んできた皆さまの実績は、新生涯学修制度へ適切に承継・読み替えが行われますが、2027年度の制度一本化までは現行制度が継続されます。現職者共通研修などの履修は新制度でも有効ですので、移行を待たずに現在の研鑽を継続してください。

登録作業療法士の先には、「認定作業療法士」「専門作業療法士」へのキャリアパスが用意されています。高度な専門性とマネジメント力を備えた人材の育成は、組織や地域における作業療法の価値をさらに高めていきます。

学び続けることは、対象者のより良い生活を支えるだけでなく、作業療法士という専門職の未来を守り切り拓く力となります。新生涯学修制度のもと、私達は新たな一歩を踏み出していきます。制度の詳細や実地経験の進め方については、以下のQRコードよりご確認ください。



生涯学修制度PV 動画(2分51秒)



生涯学修制度の説明動画(11分44秒)



実地経験の説明動画(6分1秒)

臨床の合間に、一息。

セラピストのメンタルマネジメント、どうしてる？

対象者の「やりたい」を支える私たちの仕事は、とても尊く、同時に多くのエネルギーを必要とします。日々の臨床に一生懸命なときほど、自分自身の心の声は後回しになりがちです。長く、健やかにOTとして歩み続けるために。今回は広報局員に日頃のリフレッシュ方法やモチベーションの保ち方について聞いてみました。

心のリセット

- ・ランニング、走ること(心身のリフレッシュや思考整理に良い時間となります)
- ・休日の料理(特にキャベツの千切りはおすすめです)
- ・愛犬のお世話や散歩
- ・旅行
- ・スマホゲーム
- ・子育て
- ・友達と会う
- ・推し活



明日の力に変える

- ・日々挑戦する精神でいること(常に新しいことにチャレンジしてます。新しい環境や人の中に身を置き、刺激を日々求めています)
- ・長期的な目標設定ではなく短期目標を目指す
- ・学会、勉強会に参加する
- ・院外の人たちと会う
- ・頑張ってる先輩や友達を見る
- ・県士会など色んなOTの人たちに会って話す
- ・文献を読む
- ・患者さんやスタッフから褒められたことを倍にして受け入れる

OTもまた、作業を行いながら生活する一人の人です。仕事という作業に伴うストレスの向き合い方を見直すことは、自身のメンタルヘルスを守る第一歩となるのではないのでしょうか。

県士会HP

研修情報だけでなく、県士会のお知らせやブログなど、県士会情報がアップされています。ぜひ定期的に内容をチェックし、県士会の活動を知ってほしいと思います！



県士会youtube

第31回長崎県作業療法学会より、長崎県作業療法士会のyoutubeチャンネル「学会アゲTV」を開設しております！このチャンネルを、第32回長崎県作業療法学会が引き継いでおります！今後の動画を乞うご期待！！



長崎県作業療法士会広報

広報局は県士会の活動や情報を全力で会員にお届けしていきます！

県士会インスタ

第27回長崎県作業療法学会から始まり、Instagramで県士会広報を行っています！今学会で6大会目となり、今後も投稿数が増えていきそうです！学会運営の裏側など、学会運営に従事する会員の働きなども紹介しています！



県士会LINE

LINEでは、県士会や他団体の研修会情報をはじめ、県士会からのお知らせ、県学会情報など多くの情報を提供させて頂いています。これからも様々な県士会の活動や情報を発信していきます！ぜひチェックしてください！



ビックリマン風OTシール企画

第 2 弾 !

①『練習場面』と②『その練習は何の練習場面か』
アイデアを募集します!

(▼この子が①と②のイメージでリハビリを行います)

心優しく
少しやんちゃ

長崎県出身

元気な男の子

若手OT

さらに...この子の
名前を募集
します!

お申込は
こちらから↓



(3/31締切)

アイデアを選ばれた3名と
名前を選ばれた1名には
第2弾シール1セットが
贈られます!

(申込時,連絡先の記載が必要)

編集後記



「さいかい119号」はいかがでしたか?

早いことでもう第32回長崎県作業療法学会が近づいてきました。今回は、あの子も微力ながらに学会のお手伝いしています。

これからも一緒に長崎県の作業療法を盛り上げていきましょう!

【長崎地区担当】

長崎リハビリテーション病院：
生田・江崎

長崎北病院：牧野

長崎市障害福祉センター：江頭

日見中央病院：下田

中の里通所リハビリテーション：
竹内